

# 心肺蘇生とAEDの使い方を覚えておこう

電気ショックで心停止の傷病者を救うことができるAED。  
可児市では市内の主な公共施設(小・中学校、公民館など)に、  
平成20年度内に設置する予定です。

## 胸骨圧迫(心臓マッサージ)と人工呼吸 ~心肺蘇生~

### ステップ1 反応の有無を確認

- 「大丈夫ですか?」などと声をかけながら、傷病者の肩を軽く叩き、反応があるか確認する



### ステップ2 119番通報とAEDの手配

- 呼びかけに反応がなければ「反応なし」
- 大声で近くの人に助けを求め、「あなたは119番通報してください」「あなたはAEDを探して持ってきてください」と指示する



### ステップ3 気道の確保

- 意識を失うと、舌が落ち込んで空気の通り道をふさぐ恐れがある。片手を傷病者の額に、もう片方の人差し指と中指であご先を持ち上げ、頭を後方にそらして気道を確保する



### ステップ4 呼吸を確認

- 傷病者の口に耳を近づけ、普段どおりの息(正常な呼吸)をしているか調べる
- 胸の上下動を見て、呼吸の音を聞いて、空気の流れを頬で感じるのがポイント



### ステップ5 人工呼吸(2回) ※省略可能

- 呼吸が十分でなければ人工呼吸を行う
- 気道を確保したまま傷病者の鼻をつまみ、傷病者の口を自分の口でおおって、1秒かけて息を吹き込む
- これを2回行う

※口と口が直接触れることに抵抗がある場合などは、人工呼吸を省略しすぐに胸骨圧迫(ステップ6)に移る



### ステップ6 胸骨圧迫と人工呼吸【心肺蘇生】

- ステップ5の人工呼吸が終わったら(または省略することにした)、すぐに胸骨圧迫を開始
- 圧迫部位に手のひらのつけ根を重ねて肘をまっすぐ伸ばし体重をかけ、傷病者の胸が4~5cm沈むように圧迫する
- 1分間に約100回のリズムで圧迫し、これを30回繰り返す。それが終わったら、再び人工呼吸を2回行う
- この「胸骨圧迫30回、人工呼吸2回」を1サイクルとして、AEDが到着するまで繰り返す

※人工呼吸を省略した場合、胸骨圧迫のみを続ける



圧迫部位

胸の真ん中(乳頭と乳頭を結ぶ線の真ん中)が圧迫部位

## AEDが到着したら ~AEDの使い方~

### ステップ7 AEDの準備

- AEDを傷病者の胸部の左側に置く
- AEDは、音声メッセージと点滅するランプで救助者がやるべきことを指示してくれるので、落ち着いて指示に従う



### ステップ8 電源を入れる

- ケースのフタを開け、電源のスイッチを押す(AED本体をケースから取り出す機種、フタを開けると自動的に電源が入る機種もある)



### ステップ9 電極パッドを装着する

- 2個の電極パッドを取り出し、胸の右上(鎖骨下で胸骨の右)と、左わき腹(わきの下5~8cm下)にはりつける(電極パッドの表示を参照)
- 素肌にしっかりと密着させること(パッドのケーブルを本体に差し込む機種もある)



### ステップ10 心電図を解析する

- 電極パッドをはりつける(ケーブルを接続する)と、傷病者から離れるように音声指示が流れ、自動的に心電図の解析が始まる



### ステップ11 電気ショックを実施する

- 音声指示に従って操作する
- 傷病者に誰も触れていないことを、再度確認してから点滅ボタンを押す
- 電気ショック後は、音声指示に従ってすぐに心肺蘇生を開始する



※AEDの指示により、電気ショックを連続3回まで行うこともある

### ステップ12 心肺蘇生とAEDの手順を繰り返す

電気ショック(ステップ11)の後  
心電図解析(ステップ10)の結果、  
電気ショックが必要ないと判断された場合

- 上のいずれの場合も、ただちに胸骨圧迫と人工呼吸を行う
- 心肺蘇生を再開して2分(30対2を5サイクルほど)経つと、AEDが自動的に心電図の解析を始め、再度「ショックの要・不要」を指示する
- 以後、救急隊員や医師に傷病者を引き継ぐまで、この手順を繰り返す
- 途中、普段どおりの息をしはじめた場合などは心肺蘇生を中止、回復体位にして観察を続ける

回復体位

